

トラック 62-1

昔々、ハリネズミ、猫、ウサギがいた。或る日、彼らは結婚式に出かけたが、ハリネズミが言った。「そこにいる5日間、僕は何も食べない。戻るまでタバコ以外は口にしない」。

ウサギが言い返した。

「僕に関しては、今から名前は「お客さん」にする」。

猫は同意して同じことを言った。

「僕も「お客さん」という名前にする」。

ウサギが言った。

「もし君が、5日の間、タバコ以外のものを口にしなかったら、羊を一匹あげよう」。

また、猫が言った。

「では僕は大きなゼブ[牛]をあげよう」。

彼らは身なりを整え、客として待たれている新郎の家に向かった。ハリネズミは立ち上がって同行しようとしたが、仲間は彼をさえぎって言った。

「君は、自分がハリネズミだと言ったから、君は我々とは一緒に[新郎の家には]行けない」。

彼らは出る時に、彼にタバコを与え、こうして5日間が過ぎたが、ハリネズミは空腹を覚え始めた。

土曜にタワラブがあったが、彼は腹が痛くてそこに行けず、空腹で死にそうだった。彼は仲間に先に進むよう、そして自分は少し休んでから合流すると言った。空腹が彼を苦しめたが彼は持ちこたえた。それは報酬のことを考えていたからだった。腹痛は、彼がタワラブに行けないほど激しくなった。

仲間たちは戻ってから10分後には床に就いた。ハリネズミの方は、起きて隣の部屋に入った。そこには、頭を剃りあげたひとりのおばあさんがいて、それは息子が結婚する時に彼と交わした約束だった。ハリネズミは、つやつやしたおばあさんの頭を石と間違え、そして言った。

「これはまた素敵な石だ。これは結婚式用に削られた石に違いない」。

彼は、ココヤシの実を掴み、それを食べようとして、頭の上で実を割り、おばあさんは恐怖でわめいた。家中がその叫びで起き、ハリネズミは逃げ出した。

ハリネズミが寝床にいないので容疑者に思われ、皆は彼を探した。全員が彼を探しに出かけた。彼の仲間は彼を外で見つけ、闇に紛れて逃げ出した。おばあさんは死んでしまった。

町に着いて、ハリネズミは報酬である羊とゼブをもらった。5日の間、食べなかったからである。おばあさんを殺したココヤシの実を割ったにも関わらず、彼にはそれを食べる時間がなく、それで仲間たちは約束を果たさざるを得なかったのだ。